

〔例題1〕 症例対照研究と前向きコホート研究の比較に関する次の記述のうち、正しいのはどれか。

1. 症例対照研究は、前向きコホート研究に比べて、結果が出るまでに長い時間を要する。
2. 症例対照研究は、前向きコホート研究に比べて、曝露に関する情報の信頼性が高い。
3. 症例対照研究は、前向きコホート研究に比べて、多くの費用や労力を要する。
4. 症例対照研究では寄与危険度の算出ができるが、前向きコホート研究では寄与危険度の算出ができない。
5. 症例対照研究はまれな疾患についても適用可能であるが、前向きコホート研究はまれな疾患については適用困難である。

〔正答5〕

〔例題2〕 肝硬変に関する次の記述のうち、正しいのはどれか。

1. 肝硬変の病期は、肝不全症状が出現していない非代償期と、肝不全症状が出現している代償期に大別される。
2. 肝硬変では、門脈圧が顕著に低下することにより、食道静脈瘤が形成されて破裂・出血を起こす危険性がある。
3. 肝硬変では、血中の分岐鎖アミノ酸が増加し、芳香族アミノ酸が減少することにより、フィッシャー比が上昇する。
4. 肝硬変では、就寝前に炭水化物を中心とした軽食によってエネルギーを摂取すると、エネルギー代謝の改善やQOLの改善に効果がある。
5. 肝硬変に伴う腹水に対しては、5g/日未満の厳しい食塩摂取制限を行うことが推奨されている。

〔正答4〕